



■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE横浜2022年版v.1.1

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	反町1丁目計画	階数	地上10F
建設地	横浜市神奈川区反町1丁目11-6、7	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	77 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	物販店・集合住宅	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2024年12月 竣工	評価の実施日	2024年11月30日
敷地面積	601 m ²	作成者	前田建設工業(株)
建築面積	350 m ²	確認日	2024年11月30日
延床面積	2,925 m ²	確認者	前田建設工業(株)



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み: 92%

③上記+②以外の: 92%

④上記+: 92%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合	<ul style="list-style-type: none"> 道路に接する部分に緑化を積極的に採用し、近隣の公園との調和を図った 採光、通風が確保できる施設配置計画 	その他 なし
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> 品確法の断熱等級 4 等級 カーテンや庇を合わせて屋光を制御 品確法のホルムアルデヒド発散等級 3 	Q2 サービス性能 なし
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 潜熱回収型給湯器、LED照明設備を採用 	Q3 室外環境(敷地内) <ul style="list-style-type: none"> 自生種(アセビ)を植樹 植栽により良好な景観を形成している
	LR2 資源・マテリアル <ul style="list-style-type: none"> ODP=0、GWP=10未満の発泡剤を用いた断熱材を使用 	LR3 敷地外環境 <ul style="list-style-type: none"> ライフサイクルCO₂排出率を参照値より抑制

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■ LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい



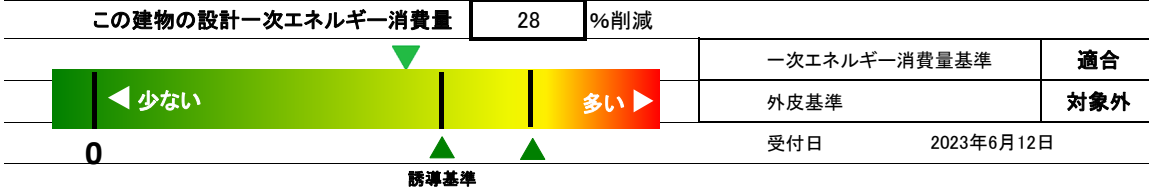
4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。

建物名称 **反町1丁目計画**

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) **【省エネルギー性能】 3**

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

①品確法断熱等性能等級4相当

③BEI=0.83(全住戸合計)

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) **【快適・働きやすさ】 3**

■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

⑨BEIs=0.72

⑩昼光率=8.8%

■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

⑭空地率=47.41%、

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) **【防災】 3**

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) **【地域・まちづくり】 2**

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

エネルギーマネジメントシステム導入



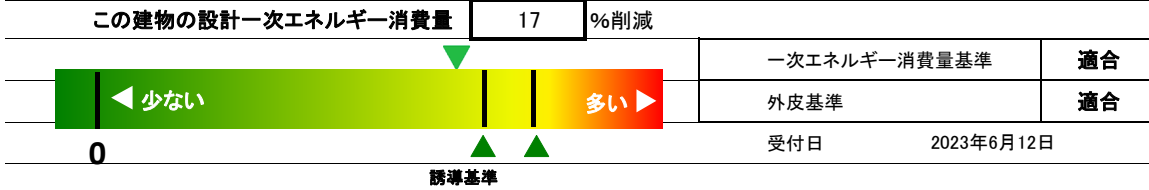
4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <集合住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。

建物名称 反町1丁目計画

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) 【省エネルギー性能】 4

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

①品確法断熱等性能等級4相当

③BEI=0.83(全住戸合計)

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) 【健康・安心】 5

■室内環境対策 (⑤外皮性能)

◆断熱等性能等級 等級4 (相当) ※全住戸の断熱性能のレベルの加重平均による

全住戸の最大UA値=0.84

■健康・安心対策 (⑥健康対策 ⑦防犯対策)

⑥品確法ホルムアルデヒド発散等級3相当

⑦防犯カメラの設置

■その他の対策 (⑧自然材料・通風の工夫など)

◆工夫の有無 なし

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) 【防 災】 3

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) 【地域・まちづくり】 2

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

エネルギーマネジメントシステム導入



CASBEE横浜2022年版v.1.1
 反町1丁目計画

バージョン CASBEE横浜2022年版v.1.1

スコアシート	実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
	配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質									2.7
Q1 室内環境						0.40			3.0
1 音環境					1.9	0.15	1.6	1.00	1.6
1.1 騒音					3.0	0.50	1.0	0.50	-
1.2 遮音					1.0	0.50	2.2	0.50	-
1 開口部遮音性能					1.0	1.00	1.0	0.30	-
2 界壁遮音性能					-	-	3.0	0.30	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-	-	2.0	0.20	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	-	3.0	0.20	-
1.3 吸音					1.0	0.00	-	-	-
2 温熱環境					2.6	0.35	3.1	1.00	3.0
2.1 室温制御					2.2	0.50	3.3	0.50	-
1 室温					快適・働きやすさ	0.62	3.0	0.63	-
2 外皮性能					快適・働きやすさ 健康・安心	0.37	4.0	0.38	-
3 ソーン別制御性					快適・働きやすさ	0.00	-	-	-
2.2 湿度制御					快適・働きやすさ	0.20	3.0	0.20	-
2.3 空調方式					快適・働きやすさ	0.30	3.0	0.30	-
3 光・視環境					3.0	0.25	3.1	1.00	3.1
3.1 昼光利用					4.1	0.30	2.4	0.30	-
1 昼光率					快適・働きやすさ	0.59	3.0	0.50	-
2 方位別開口					快適・働きやすさ	-	1.0	0.30	-
3 昼光利用設備					快適・働きやすさ	0.41	3.0	0.20	-
3.2 グレア対策					2.0	0.30	4.0	0.30	-
1 昼光制御					快適・働きやすさ	1.00	4.0	1.00	-
3.3 照度					快適・働きやすさ	0.15	3.0	0.15	-
3.4 照明制御					快適・働きやすさ	0.25	3.0	0.25	-
4 空気環境					3.5	0.25	3.6	1.00	3.6
4.1 発生源対策					4.0	0.60	4.0	0.63	-
1 化学汚染物質					快適・働きやすさ	1.00	4.0	1.00	-
4.2 換気					3.0	0.40	3.0	0.38	-
1 換気量					快適・働きやすさ	0.50	3.0	0.33	-
2 自然換気性能					快適・働きやすさ	-	3.0	0.33	-
3 取り入れ外気への配慮					快適・働きやすさ	0.50	3.0	0.33	-
4.3 運用管理					1.0	0.00	-	-	-
1 CO ₂ の監視					快適・働きやすさ	0.50	-	-	-
2 喫煙の制御					快適・働きやすさ	0.50	-	-	-
Q2 サービス性能					-	0.30	-	-	3.0
1 機能性					2.9	0.40	3.2	1.00	3.1
1.1 機能性・使いやすさ					3.0	0.40	4.0	0.60	-
1 広さ・収納性					快適・働きやすさ	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応					快適・働きやすさ	-	4.0	1.00	-
3 バリアフリー計画					快適・働きやすさ	1.00	-	-	-
1.2 心理性・快適性					2.9	0.30	2.0	0.40	-
1 広さ感・景観					快適・働きやすさ	0.00	3.0	0.50	-
2 リフレッシュスペース					快適・働きやすさ	0.00	-	-	-
3 内装計画					快適・働きやすさ	0.99	1.0	0.50	-
1.3 維持管理					3.0	0.30	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計					快適・働きやすさ	0.50	-	-	-
2 維持管理用機能の確保					快適・働きやすさ	0.50	-	-	-
2 耐用性・信頼性					2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震					3.0	0.50	-	-	-
1 耐震性					防災	0.80	-	-	-
2 免震・制振性能					防災	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数					2.9	0.30	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数					防災	0.20	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					防災	0.20	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					防災	0.10	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					防災	0.10	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					防災	0.20	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔					防災	0.20	-	-	-
2.4 信頼性					3.0	0.20	-	-	-
1 空調・換気設備					防災	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備					防災	0.20	-	-	-
3 電気設備					防災	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法					防災	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備					防災	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性					2.9	0.30	2.9	1.00	2.9
3.1 空間のゆとり					1.6	0.00	2.8	0.50	-
1 階高のゆとり					2.0	0.60	4.0	0.60	-
2 空間の形状・自由さ					1.0	0.40	1.0	0.40	-
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.00	3.0	0.50	-
3.3 設備の更新性					3.0	0.99	-	-	-
1 空調配管の更新性					3.0	0.20	-	-	-
2 給排水管の更新性					3.0	0.20	-	-	-
3 電気配線の更新性					3.0	0.10	-	-	-
4 通信配線の更新性					3.0	0.10	-	-	-
5 設備機器の更新性					3.0	0.20	-	-	-



CASBEE横浜2022年版v.1.1

反町1丁目計画

バージョン CASBEE横浜2022年版v.1.1

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-			-
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-			2.2
1 生物環境の保全と創出		地域・まちづくり		1.0	0.30	-	-			1.0
2 まちなみ・景観への配慮		地域・まちづくり		3.0	0.40	-	-			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-			2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		地域・まちづくり		2.0	0.50	-	-			-
3.2 敷地内温熱環境の向上		快適・働きやすさ		3.0	0.50	-	-			-
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-			3.3
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-			4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制		省エネルギー性能		3.9	0.20	-	-			3.9
2 自然エネルギー利用		省エネルギー性能		2.0	0.10	-	-			2.0
3 設備システムの高効率化		省エネルギー性能		4.9	0.50	-	-			4.9
4 効率的運用				2.9	0.20	-	-			2.9
集合住宅以外の評価				2.0	0.01	-	-			-
4.1 モニタリング		省エネルギー性能		3.0	0.50	-	-			-
4.2 運用管理体制		省エネルギー性能		1.0	0.50	-	-			-
集合住宅の評価				3.0	0.99	-	-			-
4.1 モニタリング		省エネルギー性能		3.0	0.50	-	-			-
4.2 運用管理体制		省エネルギー性能		3.0	0.50	-	-			-
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-			2.9
1 水資源保護				3.4	0.20	-	-			3.4
1.1 節水				4.0	0.40	-	-			-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-			-
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.70	-	-			-
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-			-
2 非再生性資源の使用量削減				2.6	0.60	-	-			2.6
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.10	-	-			-
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-	-			-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20	-	-			-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				1.0	0.20	-	-			-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.10	-	-			-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				4.0	0.20	-	-			-
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.3	0.20	-	-			3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-			-
3.2 フロン・ハロンの回避				3.5	0.70	-	-			-
1 消火剤				-	-	-	-			-
2 発泡剤(断熱材等)				4.0	0.50	-	-			-
3 冷媒				3.0	0.50	-	-			-
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-			3.0
1 地球温暖化への配慮				3.3	0.33	-	-			3.3
2 地域環境への配慮				3.0	0.33	-	-			3.0
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-			-
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-			-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25	-	-			-
1 雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-			-
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-			-
3 交通負荷抑制				3.0	0.25	-	-			-
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-			-
3 周辺環境への配慮				2.7	0.33	-	-			2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				-	-	-	-			-
1 騒音				-	-	-	-			-
2 振動				-	-	-	-			-
3 悪臭				-	-	-	-			-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.67	-	-			-
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-			-
2 砂塵の抑制				1.0	-	-	-			-
3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-			-
3.3 光害の抑制				2.3	0.33	-	-			-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				2.0	0.70	-	-			-
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-			-
上記以外の重点項目				-	-	-	-			-
<事務用途>				-	-	-	-			-
知的生産性向上への取組		快適・働きやすさ		-	-	-	-			-
知的生産性向上への取組		⑬知的生産性向上への取組		-	-	-	-			-
<住宅用途>				-	-	-	-			-
健康と安心				-	-	-	-			-
1 化学汚染物質の対策		健康・安心		5.0	-	-	-			-
2 適切な換気計画		健康・安心		5.0	-	-	-			-
3 結露・カビ対策		健康・安心		3.0	-	-	-			-
4 犯罪に備える(共用部の防犯対策)		健康・安心		3.0	-	-	-			-
		⑦防犯対策		-	-	-	-			-